

造影剤を受けられる方へ(説明書)

1 造影検査について

造影剤と言う薬剤を使用して行う検査です。造影剤を使用することで、異常の有無や病状の性状、範囲などを詳しく描出することができ、より正確な診断を行うことができます。

2 造影剤の副作用

造影剤は改良され副作用の出る頻度は低下し、その程度もより軽度になって来ていますが、まれに症状が出る場合があります。

① 軽い副作用

吐き気・嘔吐・かゆみ・じんましん・熱感などが100人に3人程度(約3%)におこりますが治療の不要な事がほとんどです。

② 重い副作用

血圧低下・呼吸困難・意識消失・腎不全等が2.5万人に1人(0.004%)の割合で発生します。きわめてまれですが、40万人に1人(0.00025%)の割合で死亡に至る例もあります。

③ 遅発性副作用

検査終了後数時間から数日くらいの中に頭痛・吐き気・めまい・じんましんなどの症状をおこすことがあります。

何か気になる症状が現れた場合は、検査終了後にお渡しする「造影剤の注意書」に記載してあります連絡先にご連絡ください。

④ 副作用時の対応について

副作用が発生した場合には適切な処置を行います。

3 血管外への漏れ

造影剤の注射中に、血管の外に造影剤が漏れることがあります。注入中に痛みがあるときはすぐにお知らせください。

少量の漏れは心配ありません。きわめてまれですが多量に漏れた場合には、別の処置が必要になります。

<注意事項>

- ◆ 過敏症の既往がある場合はヨード造影剤(CT検査)ガドリニウム造影剤(MRI検査)ともに禁忌です。
- ◆ 重篤な甲状腺疾患もヨード造影剤は禁忌です。
- ◆ 気管支喘息はヨード造影剤、ガドリニウム造影剤ともに原則禁忌です。
- ◆ ビグアナイド系糖尿病用剤(メトグルコ、エクメット、メルビン、メデット等)とヨード造影剤は併用注意です。検査前後48時間、当日を含め5日間の服用を中止してください。

(月 日から 月 日まで の服用を中止してください)

※ただし緊急に検査を行う必要がある場合を除く。